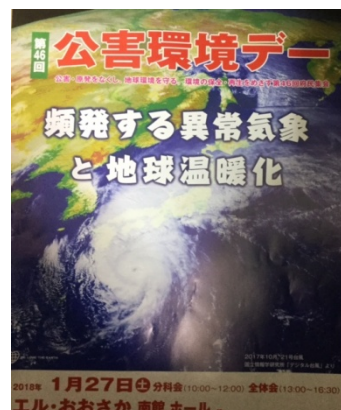


第 46 回公害環境デー

大阪に暮らすようになり、情報収集のため、できるだけ研究会や集会に出向くようにしている。20 日の「おおさか自治体学校」に続き、27 日には「公害・原発をなくし、地球環境を守る。環境の保全・再生をめざす第 46 回府民集会」に参加した。

午前は 3 つの分科会。迷ったが第 1 分科会「市民の視点で見た『エネルギー基本計画』」に参加した。

まず地球環境市民会議（CASA）専務理事の早川光俊さんが「地球温暖化問題とエネルギー基本計画」と題して講演。地球温暖化の現状を詳しく説明し、2015 年の歴史的なパリ協定採択の意義を語る。その後の「脱炭素」、日本のエネルギー基本計画をめぐる動きについて問題を投げかける。



次に気候ネットワーク主任研究員の豊田陽介さんが「世界のエネルギー政策について」講演。とりわけトランプ大統領がパリ協定からの離脱を表明するなかで、「われわれはパリ協定に残る」とする声明を発表したアメリカの非国家アクターの動きに注目した。

午後の全体会は国土交通労働組合関西気象支部副委員長の森田隆生さんの「頻発する異常気象と地球温暖化」の特別報告から始まった。気象から見た地球温暖化と豪雨災害などリスク社会の現実、測候所が 20 年前の 97 から 2 か所に減らされたことを学んだ。その後、原発賠償関西訴訟、建設アスベスト訴訟、ノーモア・ミナマタ近畿第 2 次訴訟の関係者から、訴訟支援の訴えがあった。原告団の人からの生々しい訴えに目頭が熱くなった。

休憩をはさんで、大気汚染をなくす西淀川での取り組み、淀川左岸道路問題、カジノ万博などについて報告された。淀川左岸堤防の道路建設は、大阪にとって危険きわまりない無謀な計画である。40 数年前、中津コーポの小山仁示先生のご自宅に伺ったときのことをあらためて思い出した。

会場発言の時間に挙手をして発言した。これまでは発言しようか迷うことも多かったが、大阪に来てからは迷うことなく発言するようになった。私にとって大きな変化だ。集会の感想を述べ、歴史に学ぶことの大切さ、あの関一市長時代の大阪について語った。会場から拍手をもらい、朝からの疲れが吹っ飛んだ。大阪の公害環境問題についても、さらに情報収集に努めていこうと心に誓った。

(2018 年 1 月 30 日)